



東京理科大学

大学院 経営学研究科  
技術経営専攻 (MOT)

2022年12月号 Vol.5

# MOT Management of Technology

# BUSINESS MAGAZINE



技術が社会を  
変える時代の経営者

日本のものづくりで重要な位置を占める

CKD株式会社と芝浦メカトロニクス株式会社。

これまで多数の社員を理科大MOTに派遣し、

イノベティブな人材の育成に取り組んできた2社が

それぞれ座談会を行い、理科大MOTを分析しました。

本稿ではその模様をお届けします。

# 理科大 MOTの

Tokyo University of Science



ファシリテーター



若林 秀樹 技術経営専攻 専攻長

座談会の全編を  
ホームページで公開中!



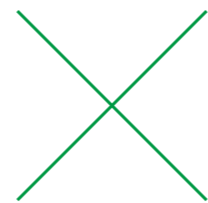
## “真価”と“進化”を 語り合う



2022年6月取材

異種に触れ、議論を重ね  
難路を経て  
高次の視点へとたどり着く

P04



価値向上を実現するための  
困難な挑戦を通じて  
未来を担う人材へと成長

P06

# 異種に触れ、議論を重ね

## 難路を経て

## 高次の視点へとたどり着く

卓越した“ものづくり”で産業界に貢献するCKD株式会社。

今回の座談会では、同社代表取締役社長の奥岡克仁氏と

同社で活躍する理科大MOT修了生3名を招き

神楽坂で過ごした濃密な日々、その真価を語り合っていました。

### なぜ、修了生は“理科大MOTロス”を感じるか

**若林** CKD株式会社の理科大MOT修了生の皆さんに、まずは近況から伺ってきたいと思います。CKDから最初に入学された横枕さんは今、社内で様々な企画をしているそうですが、理科大MOTでの学びは役に立っていますか？

**横枕** 非常に役に立っていると思います。修了後に、技術部から戦略部という自社のビジネス全体を担当する部署に異動したのですが、ここで理科大MOTでの学びが必要だったと実感しています。特に「実践リーダーシップセミナー（現：実践CXO・起業家ケーススタディ）」で、リーダーとはどうあるべきかを学び、考えることができたのが大きかったです。入学前もリーダー職を務めていたのですが、どちらかというマネジメントに重きを置いていたの、方向性や指針を示してリードしていかなければいけないと学び、反省しました。授業で学んだことも、また、「横枕バルブ」という私が創ったバルブをテーマにグラデュエーションペーパーを書き上げたことも、とても役に立っています。

**若林** 鶴賀さんは修了して2年がたちますが、いかがですか？

**鶴賀** 修了後も若林先生にオープンゼミやシンポジウム、授業にも呼んでいただくので、時間を見つけて出席していますが、いつも背筋が伸びる思いです。自分のことを振り返りながら、学生さんの反応を見ることができ、貴重な機会を頂いています。振り返ってみると、特に2年次のプロジェクト（以下「ゼミ」という）での経験が非常に役に立っていると思います。私はいつも結果を恐れずに率先して発言していて、発言しないと心配され

るくらいでした。ゼミのメンバーからは“隊長”と呼ばれていましたが、実は会社でも最初の一步を踏み出すのが私の役割だと気付くことができました。会社ではR&Dのマネジメントを担当しています。自分なりに根拠を持たら最初の一步を踏み出すべき。しかし、次の2歩目のこともしっかり考えて突き進んでいかなければいけない。そのバランスを意識して部下を指導しています。

**若林** 次いでCKDのグループ会社・日機電装にお勤めの佐久間さんは修了していかがですか？

**佐久間** CKDと自社でどうシナジーを起こすかという「たすきがけ結合」をグラデュエーションペーパーのテーマにしました。その実行はまだこれから、今は自社やCKDで私のグラデュエーションペーパーの成果について広め、共感していただくように活動しています。また、今はレポートがなくなり、自分や自社を振り返る機会が減ってしまったので、自発的にテーマを決めて分析してみたいと思っています。

**若林** “理科大MOTロス”を感じているようですね。派遣された奥岡社長は3人をどのように見ていらっしゃいますか？

**奥岡** 在学中から明らかに視点が高くなり、視野も広がって、短期から中長期の目線が変わってきているように思います。3人ともいい部分は褒めて評価し、改善点は違う視点や目線を助言してくれています。これは入学前には見られなかったことです。本当に成長してくれていて、私としてはうれしく思います。

### 入学して大きく覆されたビジネススクール像

**若林** いま奥岡社長から入学前と比べてのお



奥岡 克仁 氏

CKD株式会社 代表取締役社長

1991年入社。2015年執行役員コンポーネント本部長に就任。取締役執行役員、取締役常務執行役員を経て、2019年代表取締役専務執行役員管理担当経営企画部長に就任。2021年から現職。

話をいただきましたが、お三方は理科大MOTに対するイメージは入学前と入学後で変わりましたか？ 特に横枕さんは会社に先輩もいらっしやらない中でしたから、不安もあったのではないかと思います。いかがでしょうか？

**横枕** 入学前でもMBAについてはある程度聞いたことがあり、マーケティング戦略や売上アップの方法について深く学んでいくのかな……という気持ちで入学しました。

**鶴賀** 私も入学前はMBAのイメージを持っていました。以前通っていた別のビジネススクールで学んだのは、理科大MOTでいうA（学術）とC（コンサルティング）。特にCに重きが置かれ、コンサルティング技術について学んでいました。理科大MOTでも、同じような趣旨を異なる視点から学ぶのだと思っていました。

**若林** 入学してみて、いかがでしたか？

**横枕** 想像していたものとは全く違って、様々な視点や広い視野を学ぶことができ、業種の異なる方ともディスカッションができる点がとても印象的でした。得られる知識のジャンルも多岐にわたるとは、入学前は想像もしていなかったです。私はずっと理系でしたので、経済学の授業を受けたときには衝撃を受けました。経済学の中でも特に難しい内容で、使用する資料も英語。予習をしないと授業のディスカッションで一言も発言できなかったほどです。現在は基礎講座があると聞き、うらやましく思っています。

**鶴賀** 私も予想外なことが多く、ABCのバランスがとても良いように感じました。AとCを身に付けるためのB（ビジネス／実践）の部分として、「リーダーシップセミナー」や「価値創造」の授業がうまく組み込まれています。それから、何といっても理科大MOTには多くのゲストスピーカーがいらっしゃるのが特徴的だと思います。

**若林** 佐久間さんは、そんな先輩お二人の話を聞いて入学されたと思いますが、いかがでしたか？

**佐久間** 入学前は座学中心で、学んだことに



横枕 祐 さん

CKD株式会社 経営企画部主査／2018年4月入学（修了生）

2005年、CKD株式会社入社。13年には医薬・医療業界向け機器製品の開発リーダーに。2021年から企画部門で活躍中。

いてのレポートを提出するというイメージを持っていましたが、いざ授業を受けてみると、双方向の議論が中心でした。レポートは学んだことをどのように自分事に落とし込み、自社にどう反映して、今後の戦略に活かすか、深く考えさせられるものでした。じっくり考えたり、これまでのことをしっかり振り返ったりする機会が非常に多かったように思います。また理科大MOTはグラデュエーションペーパーの指導が充実していて、個々にフォーカスしていただけるのもありがたいですね。

### 異質との交わりから生まれる得難い刺激と“気付き”

**若林** 佐久間さんはほかに学生時代で印象に残っていることはありますか？

**佐久間** 新型コロナウイルス感染症の感染拡大でちょうど緊急事態宣言が発出された時期だったので、まず入学が1カ月遅れ、その後はオンラインでの講義でした。慣れない理科大MOTでの生活に加えて、初めてのオンライン講義だったので苦労しました。コロナ禍が少し落ち着いたところに、対面とオンラインを両立させたハイブリッド方式の講義に切り替わりました。学生がスムーズに講義に参加できるように、先生方や事務の方がマイクやスピーカーを設置するなど柔軟に対応してくださったのは、ありがたかったです。

**若林** 当初はパソコンのカメラと手持ちマイクでやっていたのですが、どうしてもハウリングしたり、ホワイトボードが反射して視認性が悪かったり、随時除菌も必要になったりしたので、設備を整えました。天井マイクにしてカメラも複数設置。低反射のホワイトボードにして、ハイブリッド方式の授業を円滑に行えるようにしました。

**横枕** 私はコロナ禍前に在学していたので、リアルで集まって授業後の飲み会も多かったです。その席で普段話せないような異業種の方とお話できたのは、とても印象に残っています。自分の業界では当たり前と思っていたことが、その方の業界ではそうでないこともあると気付くことができ、非常に刺激的でした。

**鶴賀** 異業種交流といえば、学生の皆さんに当社へ見学に来ていただく機会がありましたね。工場を見学していただいた後、取り組みについてお話しして様々な会社の方と意見交換をしました。

**若林** コロナ禍が収まったら、そのような異業



鶴賀 寿和 さん

CKD株式会社 新規事業開発室先端技術開発グループリーダー／2019年4月入学（修了生）

1997年、CKD株式会社に入社。事業部にて主にセンサーの開発に従事した後、コンポーネント本部 開発技術統括部に配属。要素技術の開発を中心に活躍中。

種交流や工場見学もしていきたいですね。奥岡社長、理科大MOTの魅力についてお聞かせください。

**奥岡** 理科大MOTの魅力は、実績を積まれた先生方の講義を受けられること、著名な経営者の生の声を聞けること、そして異業種・異職種の学生同士が交流できることだと思います。私は他流試合と言っているのですが、そのような交流を通して、自社と違う文化に触れられる点も素晴らしいところだと思います。

### 知識をわがものとし、自分だけの“ストーリー”を完成させる

**若林** 理科大MOTの最大の特徴の一つであるグラデュエーションペーパー。多様なゼミの仲間とともにビッグエスチョンを議論し、オリジナルかつ実現性のある解へと昇華していく試みは、まさに理科大MOTで学ぶ醍醐味といえます。ぜひ皆さんのグラデュエーションペーパーに関する振り返りを聞かせてください。

**鶴賀** 2年間で学んだ知識の全てをスキルに昇華させるプロセス、それがまさにグラデュエーションペーパーだったと感じます。知識を学ぶだけでなく、自分の言葉で知識を表現できるようになるための変換過程でもいいでしょうか。苦労して考えたことを実践に移すときも、コンサルタントのように事例で説明するのではなく、自分の言葉で説明できるようになりました。

**佐久間** グラデュエーションペーパーを仕上げたときの達成感、何物にも代え難いものがありますね。自分が抱える課題を体系的に整理し、ビジネス企画提案としてまとめ上げていく……その道りは途轍もない難路ですが、それだけに成し遂げた手応えは生涯忘れられないでしょう。ゼミの仲間や先輩たち、そして先生方のバックアップがあって達成できたことです。

**横枕** 佐久間さんの言うことに心から同意します。



佐久間 昭宏 さん

CKD日機電装株式会社 技術部LD1課LD2係係長／2020年4月入学（修了生）

2007年、日機電装株式会社へ入社。産業機械用モーター設計開発に従事。2017年に事業統合したCKD株式会社と共同開発製品のプロジェクトリーダーに。現在もグループ企業におけるモーター開発の中核として活躍中。

ゼミの仲間とのディスカッションは非常に刺激的でした。偶然、私が取り上げたテーマに詳しい方がいて、私の発表にに対し付度のないレビューをくれたことが成長に繋がったと感じます。授業で学ぶことはいわば“メタデータ”であり、その膨大な情報はいずれ忘れていく可能性があります。だからこそ、グラデュエーションペーパーを通して、膨大な情報から自分の“ストーリー”を完成させるという作業が重要になるのでしょう。今、グラデュエーションペーパーを見直すと、自分の考えがしっかりまとめ上げられていることに誇りを感じます。まさに理科大MOTの学びが、ここに凝縮されているといっても過言ではありません。日々の仕事で道に迷っても、いつでもここに戻ってくればいいのだと安心感を覚えます。

**若林** 皆さんとグラデュエーションペーパーを通して深い議論をすることが、私にとっても一番の楽しみです。なぜなら、学生の課題に並走する中で、私自身、様々な問いがひらめくからです。ですから、グラデュエーションペーパーの指導に勝る喜びはありません。最後に奥岡社長にお聞きしたいのですが、今後、理科大MOTに期待されることは何でしょうか。

**奥岡** まず申し上げたいのが、理科大MOTのご指導には、非常に満足しているということです。日ごろ、話を聞くことのできないようなゲストスピーカーの招聘や、双方向のディスカッションは、引き続き充実していただければ幸いです。若林先生をはじめ、各先生方には熱く指導していただいております。感謝申し上げます。ただ熱いだけではなく、温かみのあるきめ細かな指導をしていただいていることは、3人の様子を見ても感じ取れます。修了後も理科大MOTに関わる機会を設けていただき、学び、気付きを得られるという、この貴重な流れは継続していただきたいと思っています。

**若林** 奥岡社長をはじめ、皆さんのご期待に沿えるように頑張っていきたいと思っています。本日は貴重なお話をありがとうございました。

## CKD株式会社

1943年、「日本航空電機株式会社」として創業。1945年に電気機械器具の製造、修理、販売をする「中京電機株式会社」に変更。1956年、空圧シリンダ、バルブなどの量産開始。1979年に社名を「シーケーディ株式会社」へ改称。「世界のFAトータルサプライヤー」を目指す、自動化技術のパイオニア企業。自動機械装置をはじめ、流体制御機器や空気圧制御機器など、多岐にわたる機能機器の開発・製造・販売・輸出を行う。その製品数は50万点に上り、国内はもとより海外にも多くの顧客を有する。

### 理科大MOTで学びに奮闘中のCKDメンバー

谷口 伸義 さん

CKD株式会社 仙台営業所 所長／2021年4月入学

2005年、CKD株式会社に入社。太田営業所で法人ルート営業を担当。2009年、CKD上海機器有限公司へ出向。現地スタッフの教育、販売を支援。2017年、海外営業統括部でアジア、ASEAN地区の現地販売子会社の販売支援を担当。2018年から仙台営業所所長。

# 価値向上を実現するための 困難な挑戦を通じて 未来を担う人材へと成長

半導体の国際競争力回復は、日本の重要課題。

精密機械製造を手掛ける芝浦メカトロニクスの一挙一動にも大きな注目が集まっています。

今回の座談会では、同社代表取締役社長の今村圭吾氏と相談役 前代表取締役社長の藤田茂樹氏、

同社で活躍する理科大MOT修了生1名、現役生1名を招き

理科大MOTの学びからどのような価値が生まれ得るかをお話いただきました。

## 授業を通じて得た自信と 大きく変わったものの見方

**若林** 井田さんは理科大MOTの第2期生。修了式で全学生を代表して学長から学位記を受け取り、グラデュエーションペーパーの技術経営論文のカテゴリーで最優秀ペーパー賞を受賞されました。修了して1年半がたちますが、近況はいかがですか？

**井田** 現在はボンダーという半導体製造装置の責任者をしています。半導体が不足していると連日報道される中でも、半導体製造装置をお客様に滞りなくお届けするために日々奮闘しています。理科大MOTでこの半導体製造装置の価値と競争力について勉強し、考える機会をいただきました。競争力を高めるにはどの価値を上げるべきか、私が現在担当するチップボンダーの価値はいかなるものか、そうしたことを理科大MOTで学ぶことができました。その知見を活かして、現在の業務に取り組んでいます。

**若林** 入学前と修了後で変わったことはありますか？

**井田** ものを見る視点が明らかに変わったと思います。それには、理科大MOTで学び、グラデュエーションペーパーを書き上げたことが大きいです。例えば、入学前は、部下が作成する資料に対して技術者として技術論のアドバイスをしていました。しかし修了後は、この資料を誰が読むのかを想像し、読む相手によってどのような内容の資料にすればよいのかを意識することもアドバイスできるようになりました。

**若林** 藤田相談役から見て、井田さんの変化は

いかがですか？

**藤田** 彼に期待したのは、理科大MOTで知見を広げることでした。会社の中では、どうしても交流の範囲に限られます。ですから、いろいろな会社のいろいろな職種の人と知り合い、多様なものの見方を身に付けてほしかったのです。職位が上がるほど、まず全体を考えて次に個別に落としていく、そのような考え方が必要になってくるものです。理科大MOTでは、そうした経営視点も鍛えられたのではないのでしょうか。“木を見て森を見ず”ということわざがありますが、井田はいわば“森を見て木を見ず”というような考え方や仕事のやり方ができるようになってきたのではないかと感じています。

**井田** 特に「アドバンスドリーダーシップ」という授業で、著名な方々からたくさんのお話を伺えたことは貴重な経験でした。1年次の「実践リーダーシップセミナー」の授業では、学生同士で議論した結果を発表する機会やゲストスピーカーの方に質問する機会をいただきました。最初はゲストスピーカーの方に質問するのに遠慮してしまったのですが、あるとき、自分の質問したいことを思い切って聞いてみました。するとゲストスピーカーの方に親切丁寧にお答えいただけました。「これでいいんだ」と自信を持つことができました。これは、とても貴重な経験だったと感じます。

## 苦学の先に見えてくる 大きな成果と広い視野

**若林** 井田さんが芝浦メカトロニクスで初めて理科大MOTに入学して、その後には菊池さんも



今村 圭吾 氏

芝浦メカトロニクス株式会社 代表取締役社長

1985年株式会社東芝入社。1996年芝浦メカトロニクス株式会社入社。メカトロニクスシステム装置統括部長、生産・調達本部長を経て、2014年取締役、2020年取締役専務執行役員。2021年から現職。



藤田 茂樹 氏

芝浦メカトロニクス株式会社 相談役 前代表取締役社長

1982年東京芝浦電気株式会社（現：株式会社東芝）入社。1996年芝浦メカトロニクス株式会社入社、ファインメカトロニクス事業部技術部長、横浜事業所ウェットプロセス装置部長を経て、2014年代表取締役社長に就任。2021年から現職。



井田 琢也 さん

芝浦メカトロニクス株式会社 メカトロニクスシステム事業部副事業部長兼開発部長/2019年4月入学（修了生）

1995年に芝浦メカトロニクス株式会社の前身の東芝精機株式会社に入社。現職はチップボンダーと呼ばれる半導体製造装置（後工程）など事業部製品開発の責任者。



菊池 勉 さん

芝浦メカトロニクス株式会社 ファインメカトロニクス事業部ファインメカトロニクス装置統括部 統括副部長/2021年4月入学

1999年に芝浦メカトロニクス株式会社に入社。洗浄装置向けの技術開発、製品開発職を経て、現職の半導体製造前工程向け装置製造部門のマネジメントに従事。

気が非常に多く、とても楽しい時間でした。

**若林** 少し角度を変えて、藤田相談役、今村社長にお聞きしてみたいのですが、これからの技術者や経営者、あるいは技術系の経営者に、どのような人材を期待していますか？

**今村** 人間力とコミュニケーション力のある人材でしょう。エンジニアから経営者層まで、物おせず誠意を持ってお客様と接することができ、会社のPRもできる。ものづくり、価値づくりのお手伝いを通して、お客様と一緒に成長できる。そんな人間力とコミュニケーション力のある人材を会社の中で増やしていければと思っています。

**藤田** お客様が求める価値は、近年“もの、から”こと、へと重心を移してきました。私たちよりも規模の大きな半導体装置メーカーは珍しくありません。ですから、私たちが世の中の役に立ち、会社として事業として成功する道は何か、そのために今どんな装置、技術を開発すればいいのか、どのような価値を提供できるのか、真剣に考え抜く必要がありますね。

**菊池** まさに現在、理科大MOTで価値向上のプロセスについて学び、頭を悩ませている最中です。辛くも楽しいこの鍛錬をやり抜いて、期待に応えられるような人材を目指します。

## プロセスの中にこそ 本質的価値が宿る

**若林** 現時点から顧みれば、井田さんは優秀な成績を残されましたが、グラデュエーションペーパーを書く際は非常に苦戦されていましたね。技術経営論文に挑む学生には研究イノベーション学会での発表を必須としていますが、なかなか内容が決まりませんでした。

**井田** はい、当時の苦しい思いは鮮明に覚えています。若林ゼミの一日を「井田デー」と銘打ち、先生や仲間と徹底的に議論する機会を設けていただきました。その後、議論したことを煮詰めてようやく骨子がまとまり、なんとか秋の学会発表に間に合いました。チップボンダーという製造装置では、技術的な精度と速さに価値を置くことが一般的です。しかし、それはどんな技術者も当たり前のように注力している部分で、競合他社と差別化を図れません。技術以外の部分—例えば環境への配慮や、リードタイムの

短縮など、そうしたスペックも価値になり得るということが見えてきたのです。私の研究論文の中では、それを「非技術価値」という言葉で表現しました。技術価値と非技術価値をそれぞれ定量的に分析し、それがどう競争力に繋がるのか—ということをもストーリー立てて書いた論文になっています。

**菊池** 井田さんの発表はとても素晴らしかったので、現在私はそれに引っ張られてしまうことが悩みです。井田さんの研究が結果としての価値に焦点を当てているとすれば、私は価値を創造するプロセス、ナラティブ（物語）の生成にフォーカスしています。ですが、どうオリジナリティを出していくか、まだまだ先が見えない状況です。

**今村** 多忙な日々の中でもグラデュエーションペーパーに真剣に取り組んでいることは素晴らしいです。形ができてきたら、私からもアドバイスします。

**若林** 菊池さんの研究テーマである「ナラティブ」も、非常に面白い着眼点だと思います。プロセスをお客様にアピールすることで、価値が向上する。理科大MOTの在り方にも通じるころがありますね。仕事をしながら、苦労してグラデュエーションペーパーを書くところを上司や同僚、後輩が見ていて、社内の後輩が同じ立場になったときに指導する。そうした一連のプロセスが芝浦メカトロニクスの価値向上に繋がっていただければ本望です。

## 半導体業界の未来を担い 世界と戦うために

**若林** 井田さん、理科大MOTでの勉強以外の思い出はありますか？

**井田** 平日の授業後に場所を変えてディスカッションをしていたのですが、それが非常に盛り上がりたて楽しかったのをよく覚えています。私は遠方に住んでいたので1時間程度しか参加できませんでしたが、1時間だけでも濃密でした。毎回参加者が変わるので、様々な視点の意見が聞けて貴重な時間でした。神楽坂という抜群の立地だからこそできたことだと思います。気心の知れた仲間とは、修了後も神楽坂に集まって食事をしています。

**若林** 学生には異業種・同業種の様々な方が

います。菊池さんにはあと半年、交流を楽しみながら勉学に励んでいただければと思います。

**菊池** 私も修了するときには、井田さんのような広い視野を持って取り組めるようになりたいと思っています。

**若林** 今村社長はお二人のことをどのように見ていらっしゃるんですか？

**今村** 以前はさがみ野に勤務し、後工程のボンダーを担当する井田の上司でした。その後大船に異動して前工程を担当していましたので、洗浄工程を担う菊池の上司でした。2人と密に仕事をしている関係で日ごとの状況もよく知っています。井田は理科大MOTで学んだことを社内で実践してくれているのがよくわかりますし、非常に期待をしています。半導体の後工程だけでなく、前工程も若林先生に鍛えていただいていますので、菊池の学びの成果にも期待したいです。

**若林** 最後に井田さんと菊池さんからメッセージをいただけますか。

**井田** ものづくり・製造業において、その道の技術者として働き続けるという私のようなキャリアパスの方が非常に多いと思いますが、そのキャリアパスの中で視野を広げ、世界と対等に戦っていくことは難しいと考えています。その点、理科大MOTで学ぶことは大変貴重ですね。今後も私のように、理科大MOTでの学びを通して視野を広げ、得をする人が継続して出てくることを期待しています。私も引き続き支援していきたいと思っていますので、よろしく願います。

**菊池** 理科大MOTという素晴らしい環境下で学ぶチャンスをいただいています。理科大MOTで得た見識をしっかり自分のものにして、自社に持ち帰って貢献したいです。そのためにグラデュエーションペーパーを書き上げて修了することを目指します。今後ともよろしく願っています。

**若林** 理科大MOTで学ばれた方が日本の半導体シェアを上向きに転換させてくれることを期待しています。本日はありがとうございました。

## 芝浦メカトロニクス株式会社

1939年設立。商号を(株)芝浦製作所とする。その後、(株)徳田製作所、東芝メカトロニクス(株)と合併し1998年に商号を芝浦メカトロニクス(株)に変更。精密メカトロニクス、洗浄、ボンディング、エッチング、真空、成膜など幅広いコア技術の結集と融合により、半導体の前後工程、フラットパネルディスプレイの前後工程、電子部品などの用途向けに製造装置の開発からサービスまで、トータルソリューションを提供している。近年、微細化が進む半導体分野の装置開発に注力。これからさらに広がるデータ社会に貢献している。

# 業種・職種の垣根を超え、

# 化学反応が生まれていく

# 機会

## 経験に即したリアリティのある議論を通して アントレプレナーシップを鍛える

加納 誠 さん 2022年4月入学  
イオン株式会社/  
イオンスマートテクノロジー株式会社  
アドミニストレーションディビジョン

2015年イオンモール株式会社入社。  
4年間テナントリレーションに従事。  
2019年よりデジタル推進統括部にて  
自社アプリプロジェクトメンバー、イオン  
株式会社DX戦略企画チームを経て現  
職。グループDXの中核を担う企業の  
バックオフィス業務を担当。



### 【私が体験した化学反応】

「技術経営入門」では他社とコラボレーションしたビジネスモデルを  
発表。学生全員が社会人なので、経験に即した議論を展開できました。  
将来はグループ発展のためにリスクテイキングな組織文化を作ることが  
目標。経営に必要な要素を網羅し、イノベーションも学べる理科大  
MOTは、アントレプレナーシップを育むには最適な環境です。

## 「学び」と「協創」と「イノベーション」から 新たな可能性が生まれる

伊藤 健 さん 2022年4月入学  
株式会社Gakken  
教育ソリューション本部  
幼児教育事業部 副部長

2002年、株式会社学習研究社（当時）  
入社。幼児教育事業部に営業16年、  
商品開発4年。幼稚園保育園市場に向  
けて絵本や物品の販売業務に従事。



### 【私が体験した化学反応】

グループワークで人口衰退地域の課題解決に取り組んでいたとき、当  
社と異業種の企業で協創してビジネスモデルを生み出す提案に至りま  
した。他業種と交流すると自社の良い点悪い点を改めて見出し、その  
枠を飛び出せる可能性を感じた瞬間です。未来の日本の中心産業を担  
うプラットフォームは、理科大MOTでの「学び」と「協創」と「イノベ  
ーション」が重なり、化学反応から生まれるものだ妄想しています。

## 議論の中で芽吹く新たな可能性。 VUCA時代を越えていくヒントがここに

高畑 真悟 さん 2022年4月入学  
株式会社Gakken  
関西本部 本部長

2002年、株式会社学習研究社（当時）  
入社。全国の支社で文教市場での営業  
を14年、本社事業部で事業運営を6年  
経験。現在、株式会社Gakken関西本  
部では現場の指揮官として、物品販  
売・教室運営に従事。



### 【私が体験した化学反応】

当社の事業モデル変換を最終目的として議論した際に、すぐにも始  
めたいようなアイデアがいくつも出て、異業種の学友の発想には大  
きな刺激を受けました。このような時間を共有できるだけでも、理科大  
MOTで学ぶ価値は非常に貴重と感じます。VUCAの時代で生き残っ  
ていくために、異業種企業を含む全てのステークホルダーが集い、助け  
合う「プラットフォーム」を実現したいと思います。



## 業界をけん引するトップ層に触発され 思考がリンクし議論が生まれる

半貫 恵司 さん 2022年4月入学  
サンケン電気株式会社  
マーケティング本部プロセス技術統括部  
統括部長



1993年、サンケン電気株式会社入社。  
パワー半導体のデバイス設計、プロセ  
ス開発に従事。数年間の工場勤務、海  
外デザインセンタ勤務を経て、現在、  
マーケティング本部プロセス技術統括  
部長として開発業務にあたる。

### 【私が体験した化学反応】

理科大MOTの特徴は様々な業界のトップが登場し、ホットな話を聞ける点  
にあります。私たちはその雰囲気にも包まれ、思考がリンクし、深い考えに気  
付かされます。そこから学生と教員との議論が生まれ、思考が進化してい  
きます。電機、建設、材料、IoT、銀行など、各業界の第一線で働く社会人  
がグループ討議をしますが、飛び出す意見や指摘は本当に刺激的。自然と  
視野が広がり、課題を主体的に捉えることができるようになります。

## 理科大MOTはNorth Star Metric 変化の激しい時代で道しるべとなる

長尾 康一 さん 2021年4月入学  
株式会社ジャパンディスプレイ  
Lプロジェクト 製品開発責任者



株式会社ジャパンディスプレイにて自  
動車向け新製品の開発マネージャーを  
務めた後、新規事業推進を担当。製品  
開発責任者として新技術の量産化・事  
業化を推進、世界初の量産確立ならび  
に事業化を達成し、2022年10月に正  
式発表を実施。

### 【私が体験した化学反応】

専門性の異なる先生方からレベルの高い授業を受けることで、高い視座・広  
い視野を修得、実際の業務遂行でも結果を出すことができました。理科大  
MOTの多種多様な学友、先生と論を交えれば、日々の業務で直面する「新し  
い課題」も必ず突破できると感じます。そうした環境は、変化の激しい時代  
で、唯一無二の価値ではないでしょうか。理科大MOTで築いた関係性は、  
今後のキャリアを進める上でのNorth Star Metricのような存在です。

## 業種も経験も異なるメンバーの 不統一な視点が、新発想へと収斂する

佐藤 大樹 さん 2022年10月入学  
大成建設株式会社  
技術センター イノベーション戦略部  
チームリーダー



2005年、建築設計部門にてホテルや  
劇場等の設備設計を担当。2010年よ  
り技術センターにて空調・換気システ  
ムの研究開発に従事し、2019年から  
は顧客との共創活動、保有技術の社会  
実装に向けた実証実験等を担当。

### 【私が体験した化学反応】

「標準化戦略」の講義では、仮想の競争環境で企業になり切って戦略  
を立案し、不確実な市場で標準化を有効活用する実践的な経験が積み  
ました。繰り返されるグループワークはまさに化学反応で、業種も経験  
も異なるメンバーが課題に取り組み視点は全員異なります。それが回を  
重ねるごとに、誰もが思いつかなかった方向に収斂していく経験は、理  
科大MOTの醍醐味。発見や学びを繰り返しています。

## 「気付き」が「学び」に変わり 新しい価値創造へと繋がっていく

佐藤 将路 さん 2022年10月入学  
大成建設株式会社  
土木本部土木技術部ICT推進室 課長



2003年、大成建設株式会社に入社。設計技術者として、コンクリート構造物や地盤に関する設計のほか、国内外の土木の現場を経験。2021年より現職にて現場のデジタルツインを推進。技術士（建設部門）、一級建築士。

### 【私が体験した化学反応】

この学舎には積極的な人たちが多く、業種や職種など異なるバックグラウンドを持つ人たちから放たれる言葉の数々から多くの「気付き」を得ています。さらに、先生たちがそれらの言葉に様々な知識や経験を加えてくれるため、「気付き」を「学び」に昇華させることができます。その「気付き」や「学び」を自身の業界に還元させ、建築と土木を融合させる等の新しい価値を創造し、世の中に貢献したいと考えています。



## 思考の広がりや人の繋がりを活かして 社会課題の解決と企業の躍進に貢献

石川 諭 さん 2022年4月入学  
株式会社東芝 技術企画部  
技術戦略室 戦略企画担当 シニアマネージャー



1997年、株式会社東芝入社。1999年、新型ディスプレイデバイスの設計・開発に従事。2007年から生産技術センターで薄膜プロセスの研究開発に携わり、半導体等の生産性向上に貢献。2019年、同センター材料・デバイスプロセス技術研究部部長となり、2022年より現職。

### 【私が体験した化学反応】

グループワークでは様々な企業や業種で議論しますが、技術者の私では考えつかない切り口や発想があり、驚きの連続です。社内会議でも当たり前だったことに疑問を持つようになり、思考の幅が広がってきたと感じます。現在、我々が直面している社会課題を解決するには、国境を越えた産学官の共創が不可欠。“化学反応”で得られた思考の広がりや人の繋がりを活かして、課題を解決し、日本企業の成長に貢献したいと思っています。

## 全方位のスキルを身に付け 社会課題の解決へと前進していく

古田 敦史 さん 2022年10月入学  
大成建設株式会社  
技術センター



2005年大成建設に入社。設計、現場、研究、知財を経て2019年から技術企画に所属し、技術経営に携わる。大成建設における理科大MOTの一期生として、社内にMOTの輪を広げていく。

### 【私が体験した化学反応】

学生たちも第一線で働く社会人であるため、隣席の学友が話す雑談にさえ学びがあります。その友人たちとのグループワークはさらに貴重な学びです。一方向のベクトル（技術開発）の知識しか持たない人物が、経営学やリーダーシップを学び、全方向的なスキルを持つ人物へと成長する。そして、仲間たちと触れ合うことで化学反応を生み、社会課題の解決に前進していく。理科大MOTで過ごす日々からは、そんな未来が想像できます。



## 気付きが生まれる機会に満ちたこの環境から 新たな企業間連携の種が生まれる

今原 修一郎 さん 2022年4月入学  
株式会社東芝 研究開発センター  
知能化システム研究所 システムAIラボラトリー



電機メーカーの研究所でAIおよびIoTの研究開発に従事。仏リヨン市のスマートビル実証では住居部分の実証を担当。技術と経営の距離が近くなっているため、理科大MOTでは特に経営分野を学び、技術と経営の両軸を実行できる研究者になることが目標。

### 【私が体験した化学反応】

100%社会人で学ぶ意識のある方の集まりですので、授業での質疑の時間が楽しく、質が高いです。また、授業後の交流でも、多様な分野の方がいるため同じ中間層の悩みでも違う視点で相談でき、新たな気付きが生まれます。この化学反応が生まれる場を活かして、構想を一段も二段も広く、深くするとともに、理科大MOTネットワークが企業同士を連携させるブリッジになることに貢献できればと考えています。

## 固定観念が覆される感覚こそが 理科大MOTの醍醐味

服部 将志 さん 2022年4月入学  
太陽誘電株式会社  
開発研究所 機能デバイス開発部 課長



2005年、太陽誘電株式会社に入社。記録メディアディスクの開発を担当。2017年からは新規事業開発業務に従事。

### 【私が体験した化学反応】

異業種異職種の学生同士でディスカッションをする機会が多く、そこに異なる思考の化学反応が起きます。この化学反応により、自分自身の固定観念が覆される感覚は理科大MOTでしか得られない価値です。このVUCA時代において、社会課題解決に繋がる新規事業創出は自社のみでは実現できません。理科大MOTで見出した化学反応を活かして、客観的・多角的な視点で戦略を練り提案できるようにしていきたいと思っています。



## 気付きと経験の融合から 将来像を形成するピースが生まれる

亀井 一央 さん 2022年4月入学  
東芝エネルギーシステムズ株式会社  
パワーシステム事業部 原子力技術部 参事



2006年、株式会社東芝に入社。その後、国内および海外で原子力発電所のシステム設計担当として従事。その経験を活かし、現在は大規模な原子力発電所関連プロジェクトのプロジェクトマネジメントを担当。

### 【私が体験した化学反応】

答えのないテーマでグループ討議・発表する講義が多数あります。例えば「シンギュラリティは来るか?」のお題に対し、多様な業種のメンバーで技術、経済、環境などの切り口から意見をぶつけ合いました。想像もしない他者の意見を咀嚼して自分の意見と融合させる経験は、理科大MOTならではのものです。この新しい気付きが自身の経験と化学反応を起こし、将来像を作るピースが一つ一つ確実に生み出されている感覚があります。

## 異業種の豊かな発想を浴びて 思考が練り上げられていく

窪田 伸之助 さん 2022年4月入学  
パラマウントベッド株式会社  
開発部 マネージャー

2008年入社以来、電動介護用ベッドの製品企画・開発に従事。2019年、睡眠の状態を検知して自動運転する日本初のベッド、Active Sleep BEDの開発とブランド立ち上げを行う。現在は製品企画・開発と新規事業のプロダクトリーダーを担当。



### 【私が体験した化学反応】

「アドバンスドリーダーシップ」の授業では、著名な外部講師の講演を拝聴できるだけでなく、議論の機会も頂き、まさに活発に考えをぶつけ合う理科大MOTならではの講義だと感じます。先生方・学友のほとんどが異業種ですが、皆さんの豊かな知識や発想には驚くばかり。日々、思考が練り上げられ、研がれている実感があります。グループワークでは学友と新しいビジネスを考え、本当に試してみたいと思えるアイデアが生まれました。

## 期待を超える仲間とともに 新たな解を探す豊かな時間

田澤 智雄 さん 2022年4月入学  
株式会社ビジョナリーホールディングス  
眼鏡事業部 マネージングディレクター代理



2011年、本社商品グループへ異動になり、メガネ担当として主にレンズのマーケティングに従事。2019年、眼鏡事業部グループ長に就任。2021年には眼鏡事業部マネージングディレクター代理へ。現在に至る。

### 【私が体験した化学反応】

理科大MOTは成長産業や成熟産業など様々な業種、職種が交わる場であり、新しい考えが生まれる場。期待を超える仲間と成長をしながらか、新たな解を探す時間は学びの楽しさを教えてくれます。化学反応を起こす仲間という財を得て学び続ける未来と、仲間を待たずに過ごしている未来の差分を想像し、自身の成長として楽しみつつ、新たな問いと解が交わりながら広がる世界に関わりを持ち続けたいと思います。

## 様々な視点・思考の重なりの中に 社会課題解決の未来展望を見る

中川 雄太 さん 2022年4月入学  
株式会社ビジョナリーホールディングス (VHシェアードサービス)  
デジタル・コマース事業部 マネージャー

2013年に株式会社メガネスーパー（当時）に入社。社長室として店舗営業に後、製品開発や新卒・中途の採用を担う。2018年から現事業部のオムニチャネル担当として顧客価値創造の為新規サービス開発・運用に従事。



### 【私が体験した化学反応】

化学反応とは、自分にはない価値観を持っている仲間・教員方との対話で起きる自己変化と考えます。テーマに沿ったグループワークやゲストスピーカーに登壇いただく授業の中、様々な視点・思考が重なっていく過程で、そうした自己変化を強く感じます。この無形の財を活かし、当社の『五感の健康寿命を100年に』という理念のもと、高齢化社会における社会問題を解決していきたいと考えています。



## 対話を通して、言語化されていなかった 自身の課題を発見

佐藤 良介 さん 2021年4月入学  
能美防災株式会社  
技術本部第1技術部  
イノベーション推進室

2014年にSier企業に入社し、ITシステム開発を経験。その後、2019年4月に能美防災株式会社へ入社。自社で新たに開発された防災ソリューションの事業推進に従事している。



### 【私が体験した化学反応】

社会人として何年も先輩で、経験豊富な方たちと同じ課題を議論する空間は、私の目線では気付くことができない多くの学びを与えてくれます。先生や学生同士との対話で、言語化されていなかった自分の課題感にも気付くことができます。いずれ新規事業を推進する際に、顧客や業界の抱える課題にリーチすることを意識し、イノベーションを起こしていきたいと思えます。一緒に学んだ皆さんとの繋がりは、卒業後も大事にしたいですね。

## “違い”を感じることから 発想力と視野の拡張が始まる

井本 雅博 さん 2022年10月入学  
株式会社三菱UFJ銀行  
営業本部営業第六部 調査役

2016年、株式会社三菱東京UFJ銀行（当時）に入行。中小企業向け法人営業担当、投資銀行審査担当を経て、現在は総合電機・半導体企業等を担当する大企業向け法人営業に従事。

### 【私が体験した化学反応】

私は文系出身ですが、理系出身の学生とは課題に対するアプローチや思考プロセスの違いを感じる場面も多く、新鮮な発見がありました。特に印象的な授業は「アドバンスドリーダーシップ」。様々な分野のプロフェッショナルであるゲストの講義はとても刺激的で、貴重な学びを得ています。先生方や学生の皆さんの議論を通じて社会の潮流に触れ、イノベーションをけん引できるようなリーダーを目指します。

## 新産業の創出を目指して 鍛える「目利き力」と「実践力」

西村 卓也 さん 2022年10月入学  
株式会社三菱UFJ銀行  
産業リサーチ&プロデュース部 調査役

2013年に株式会社三菱東京UFJ銀行（当時）入行、梅田支社にて法人営業に従事。2015年企業調査部（現：産業リサーチ&プロデュース部）に異動。大口案件の与信判断サポート、顧客企業に対する事業戦略提案、顧客企業との共創による新産業の創出へと役割が変化。

### 【私が体験した化学反応】

「アドバンスドリーダーシップ」では、各界のリーダーをゲストスピーカーに迎え半生を語っていただいた後、学生とのディスカッションを通じて深掘りします。“特別解”である彼らの経験を“一般解”に昇華させ、自身のキャリアに活かす過程はエキサイティングです。こうした経験を通じて、本質を見極める「目利き力」と組織を動かす「実践力」を培い、顧客企業とともに新産業を創出したいと考えています。

# 継続した学びの先に見据える イノベーションの光

## 継続した学びの先に見据える イノベーションの光

業種、職種を超えて学生が集い

多彩な外部ゲスト講師が教壇に立つ理科大MOT。

繰り広げられる他流試合の中

彼らはどのような課題意識を持って志考するのか。

そして、どのような“財”を手に入れるのか。

過去から未来へと続く学びの中で

発展していく学生たちの志に迫る。

# 志





### 一般解から特別解を導き出し 価値創造に貢献したい

古山 瑞穂 さん 2022年4月入学  
三井・ダウ ポリケミカル株式会社  
テクニカルセンター 測定分析グループ グループリーダー

理科大MOTでは、先生と学生が一体となって議論の中で、一般解から特別解を導き出す経験を重ねることができます。言語化が難しい場面では、先生からさりげないサポートがあることもありがたいですね。技術と経営の両方を学んだ強みを自信にして、新たな価値の持続的創造に貢献したいです。



三井・ダウ ポリケミカル  
A JOINT VENTURE



### 本質を突く議論の中で 停滞感の突破口を開く

島田 覚 さん 2022年4月入学  
東芝プラントシステム株式会社  
産業システム事業部 産業制御技術部 制御第二グループ

実務において矛盾や葛藤に直面し、停滞感を感じていた中、挑戦に向けた「学び」が必要と考えるに至り、入学しました。学生は全員「社会人」で、教授は「社会人経験」が豊富。そのため、本質を突く質問や議論が活発に行われます。仲間とともに習得した技術経営の「学び」により、自ら考え行動し解決する能力が培われたと実感します。

東芝プラントシステム株式会社



### 巻き込み型で 創発的イノベーションを起こす

高崎 正浩 さん 2022年4月入学  
東芝エネルギーシステムズ株式会社 風力部 スペシャリスト

ここでは、授業の約半分がインタラクティブなディスカッション。質の高い質疑応答を行うため、思考力が鍛えられている実感があります。授業のちょっとした一言から、自社社長を講義に招くことになるなど、関係者を巻き込んだ創発的イノベーションが起きています。

TOSHIBA



### 激変の時代に対応するため 経営技術の学びに挑む

金林 聡子 さん 2022年4月入学  
トレックス・セミコンダクター株式会社  
開発本部 製品開発部 開発2グループ グループ長

時代や環境の変化の中でリスクや可能性に対処するためには、さらなる知識が必要だと感じ、入学を決めました。理科大MOTの教授陣は様々な分野で活躍されているため、具体的な事例での授業が展開されます。業種を超えて仲間と刺激し合い幅広い視点を身に付け、社会課題を会社とともに取り組めるよう成長したいです。

TOIREX



### 自分なりの解を得て クリエイティブ産業に貢献

入江 侑希 さん 2022年4月入学  
株式会社フロウプラトウ

決まった答えのない世界で自分なりの解を出し、結果を出せる人材になりたいと考え、入学しました。どの先生も親身に相談に乗ってくださり、企業に属しているだけでは得られない視点・気づき・学びを得ることができたと感じます。どのように経営をデザインするのか自分なりの答えを出し、企業の成長とクリエイティブ産業に貢献したいと思います。

flowplateaux



### 他者と連携することの価値を 社内外に還元していく

谷 慎一 さん 2022年4月入学  
三菱UFJ信託銀行株式会社 フロンティア戦略企画部 調査役

働きながら学べる立地、教育プログラム、大学発ベンチャー輩出数に魅力を感じ、入学を決めました。第一線で活躍されたゲストスピーカーの講義には無二の価値を感じています。多様な考え方を受け止め、解釈し続けることで、発想の転換が図れることを学びました。この学びを活かし、他者と連携することの価値を社内外に還元していければと考えています。



一人ひとりの志が受け継がれ、新たなイノベーションへ

派遣元企業



沖電気工業株式会社

1981年に、創業者の沖野太郎が日本で初めて電話機を製造し、日本初の通信機器メーカーとして誕生。OKIグループの使命は、夢や希望が現実のものとなる情報社会の実現に貢献していくこと、また、それによって世界の人々に「安心」をお届けすること。ブランドスローガンとして「Open up your dreams」を掲げ、広く社会インフラを支える。



米澤 英昭 さん 2022年4月入学

沖電気工業株式会社  
ソリューションシステム事業本部  
金融法人ソリューション事業部 金融ソリューション開発第四部 スペシャリスト

2003年、沖電気工業株式会社入社。金融機関のお客様を中心に、主にATMの取引に関連したトランザクション処理システムの開発に従事。2019年より現部署にて、入金金・為替取引に関連したシステム開発に取り組み。

「企業産業分析予測」の授業では、様々な分析手法を学び、自社や業界の分析を実践。異なる業界や立場の学生が持つ悩みから生まれた分析は新たな気づきに繋がり、これこそが理科大MOTの醍醐味だと実感します。理科大MOTの学びを徹底的に自分事として掘り下げていくことが、自社の課題解決へと続く道。そこから自社が目指す社会課題解決の志へと繋げていくことが目標です。

鈴木 真人 さん 2021年4月入学

沖電気工業株式会社  
コンポーネント&プラットフォーム事業本部 開発本部 LED応用開発部 部長

2001年、沖電気工業株式会社OCCアドバンスドオート部に半導体通信デバイスの設計開発。2003年、株式会社沖デジタルイメーシングの次世代ヘッド開発プロジェクトにて新規実装技術の設計開発。2020年より現職。新規実装技術を活用したLED応用製品の設計開発を行う。

道半ばで新規事業開発を断念するに至った苦い経験があります。現在、再びチャンスを得ましたので、スキルアップして開発完遂の原動力になりたいと考え、入学を決めました。「アドバンスドリーダースhip」では、悪戦苦闘しながらも活路を見出した経営者たちのリアルな成功あるいは失敗体験を伺うことができ、非常に勇気付けられ、将来への活力が得られたと感じています。

派遣元企業

日立国際電気



株式会社日立国際電気

2000年に国際電気株式会社・日立電子株式会社・八木アンテナ株式会社と合併し、株式会社日立国際電気へ。映像・通信分野において、優れた技術や製品、ソリューションを提供し、安全で豊かな社会基盤づくりを支える。長年培ってきた無線通信技術や映像監視・画像処理技術をコアコンピタンスとして、社会課題やニーズに応えるソリューションビジネスに注力し、Society 5.0や超スマート社会の実現に大きく貢献している。



宮部 達志 さん 2021年4月入学  
株式会社日立国際電気  
基盤ビジネス本部 技師

2012年、株式会社日立国際電気入社。以来、自治体向けの防災行政無線システムの設計業務に従事。

業界のリーダーから、その場限りの話を聞くことができる授業が魅力の一つ。ただ話を聞くだけでなく、学生や先生方と学びの場を作り上げていくことで得られる新たな知も理科MOTの財です。ここで学んだ技術経営の観点から、変化が必要なタイミング、対処を見極めて実践に移すとともに、影響の範囲を組織内から全社へ、全社から社会へと広げていきたいとします。

小宮 佑一郎 さん 2020年4月入学(修了生)

株式会社日立国際電気  
5G/AI開発部 主任技師

2010年4月、株式会社日立国際電気に入社。2013年4月Hitachi Kokusai Electric Europe 出向。2015年4月から現在まで株式会社日立国際電気にて画像処理アルゴリズムの研究開発、映像監視システムおよび無線ネットワークを構築するためのプラットフォームソフトウェアの開発に従事。

理科大MOTの講義はゲストスピーカーの講演で構成されるものが多いです。各分野のリーダーたちの考え方や、学生同士のディスカッションを行うことから、多くの気づきを得ることができました。この学びを自社の組織づくりに活かすことが目標。自社がソリューションを効率的に生み出せる組織となり、日本のDXに貢献できるよう尽力していきたいとします。



井手 佑亮 さん 2019年4月入学(修了生)  
株式会社ニコン 映像事業部 開発統括部  
設計部 第四設計課 主幹研究員

2005年に株式会社ニコンに入社。社内製造装置の開発設計に携わった後、カメラの電気設計に従事。現在は、「新たな価値創造」に向けて新規事業開発、およびカメラ開発でプロジェクトマネジメントに携わる。

「実践リーダーシップセミナー」では、多種多様な教員、学生との本気のディスカッションが、自らを次のレベルに引き上げてくれました。また、グラデュエーションペーパーを通して、自社と顧客に向き合えたことは貴重な経験。この学びを活かして、顧客に寄り添い「新たな価値」を創造し、豊かで「人と機械が共創する社会づくり」に貢献したいと考えています。

堂坂 淳也 さん 2022年10月入学  
株式会社日立国際電気  
鉄道ビジネス本部 本部長・執行役員

1992年4月入社、主に無線機器の設計・研究に従事。2018年まで第2.0〜3.9世代向け基地局装置等の開発に従事。その技術を活用し、VHF周波数帯域を使用したブロードバンド無線機を開発。2021年からは鉄道ビジネス事業推進責任者。2022年より現職。

「アドバンスドリーダースhip」で甘利明先生のお話を直接伺ったことが印象的。質疑応答での真剣勝負は、体温が一度上がった感覚でした。(理科MOTの醍醐味) 私の同期には、建設業、銀行、メーカーなど幅広い業種のプロの方がいます。(理科MOTならではの知の融合) 「東京一極集中」の課題に対して地域分散による新たな街づくりと生き方を提言しそのために必要な技術やサービスを日丸連合(理科MOT入派)でブレークスルーを起こすことが目標です。

派遣元企業



株式会社ニコン



企業理念である「信頼と創造」のもと、コア技術の光利用技術と精密技術をベースに、商品やソリューションを提供。産業や人々の生活に役に立つ存在として、グローバルで信頼され、高い認知度を誇るブランドとして確立している。培ってきた技術を様々な領域へと応用し、新たな価値を創造することで、経営ビジョンで掲げる「Unlock the future with the power of light」を体現する。

手塚 洋二郎 さん 2020年4月入学(修了生)  
株式会社ニコン 先進技術開発本部  
光デバイス開発センター 第二開発課 課長

2002年、株式会社ニコン入社。一貫してCMOSイメージセンサの研究開発に従事。自社デジタルカメラ向けセンサ開発では設計から、カメラ評価、量産サポートまでを経験。現在は将来技術の開発を推進。

イノベーションを起こすための戦略、組織、文化などを身に付け、自社発展に貢献したいと思い、理科MOTを選びました。現在、自社では2030年の姿からバックキャストした中期経営計画に取り組み中。現状と新規事業の育成を実施しています。ですが、双方のバランスという点で様々な課題があり、そこで理科MOTで鍛えた知識や多視点が役に立っています。

派遣元企業



昭和電工株式会社

石油化学、化学品、カーボン、セラミックス、アルミニウム各種製品、ハードディスクメディア、エレクトロニクス材料など多様な個性派製品を幅広い産業分野に提供する化学メーカー。「化学の力で社会を変える」をPurposeに掲げ、時代が求める機能を創出し、グローバル社会の持続可能な発展に貢献する。2023年1月1日に昭和電工株式会社と昭和電工マテリアルズ株式会社は統合し、新会社「レゾナック」へ。



森 修一 さん 2022年4月入学  
昭和電工マテリアルズ株式会社  
情報通信事業本部 実装材料開発部 主任研究員

2005年日立化成工業株式会社(当時)に入社後、半導体用ダイボンディング材料を中心に後工程材料の開発業務に従事。2017年から2019年の間は技術サービスの担当として上海赴任。2022年現在はダイアタッチフィルムの開発主任研究員。

当社は様々な半導体材料の開発において、お客様とコミュニケーションが取れることが強みの一つ。それらの技術動向を横に繋ぐ技術マネジメントを習得し、開発効率を向上したいと考えました。「グローバルビジネス交渉力」はまさに他流試合といえるディベート中心の講義で、ロジカルな議論で脳がカロリーを消費する、貴重な経験をさせてもらいました。

尾瀬 昌久 さん 2022年4月入学  
昭和電工マテリアルズ株式会社  
情報通信事業本部 積層材料開発部 部長

1994年入社後、プリント配線板用積層材料の開発に従事。主に半導体向け積層材料の開発を担当。2014年より技術サポート、施設の担当としてカリフォルニア州サンノゼに駐在。2017年に帰任し、現在に至る。

入社以降、製品開発に従事してきましたが、より高い視座で事業運営・経営に関わりたく入学を希望しました。理科大MOTで鍛えられる知は多岐にわたりますが、今後の事業運営・経営の基礎となるものです。グラデュエーションペーパー執筆を通じて自社発展に繋げるための課題を発見し、VUCA時代を乗り切るスキルを体得したいと考えています。

満倉 一行 さん 2021年4月入学  
昭和電工マテリアルズ株式会社  
情報通信事業本部 パッケージングソリューションセンター 担当部長

2006年入社。半導体材料・プロセスの開発と、当社の評価プラットフォームを活用した企業連携プロジェクト「JOINT2」の立ち上げに従事。ベルギーのコンソーシアムImecへ2年間の企業派遣、2018年に大阪大学で工学博士を取得。現在に至る。

「企業産業分析予測」「研究開発マネジメント」では、多種多様な情報を自分事として消化し、未来の社会構造と要求に対する企業の組織構造を提案します。理科大MOTで知的体力を鍛錬し、同時に会社の実践で経験を積みこの継続によって会社の利益を確保しながら、社会にとって有益で優良でユニークなCXOとなる将来像へ近づきたいと思っています。

南 久貴 さん 2021年4月入学  
昭和電工マテリアルズ株式会社  
情報通信事業本部 研磨材料事業部 部長

2006年入社。研究所および開発部で半導体用研磨液の研究開発に15年携わる。その間、複数量品の開発・上市や顧客対応リーダーなどを担当。2022年1月に研磨材料事業部に異動し、現在は事業企画を担っている。

「実践CXO・起業家ケーススタディ」は、企業トップから直接話を聞き、提案にまとめるチャレンジングな内容。メンバー同士の議論も白熱しました。また、複数の授業でIntangible assetsについて学び、新たな視点に刺激を受けました。社内や業界の外で起こる変化や考え方を取り込むことで、自ら変化を作り、より良い姿への変革を先導できればと考えています。



岸本 崇 さん 2021年4月入学  
株式会社ニコン  
光学本部 シナジー推進部 先端オプトメカ設計課 課長

2003年入社。交換レンズのメカ設計に従事し、企画から設計、生産に携わる。2019年より現職。ニコンの次の時代を創るオプトメカ技術を開発し、多事業部に展開。ニコンの技術力の底上げに貢献中。

「研究開発マネジメント」は、教授陣による深い講義と第一線で活躍するゲストスピーカーによる熱い講演で構成されており、実務上の様々な課題・解決策を学ぶ時間は非常に有意義でした。多くの実践的な知識や考え抜く力のほかに、共に学ぶ仲間を得られることも、理科MOTの財産。これを糧に、多角的な視点で技術提案・事業提案を行うことが当面の目標です。

今井 政詞 さん 2022年4月入学  
株式会社ニコン  
ヘルスケア事業部 技術統括部 システム開発部 開発プロジェクト推進課 課長

1997年入社。新規事業の立ち上げ部門を経験後、産業用デジタルカメラの電気およびファームウェアの設計を担当。2007年より6年間ニコン労働組合に出向復職し、2014年から顕微鏡の開発・設計部門のマネジメントを担い、現在に至る。

「実践CXO・起業家ケーススタディ」では、企業トップから経営施策や裏側の苦労話などを拝聴しました。それを深掘りし、多視点で分析してまとめ上げる授業は、ほかでは経験できない貴重な時間。理科MOTで得たイノベーション思考や分析手法、リーダーシップなど幅広い学びを投入し、自社の「ありたい姿」の実現に貢献できるよう主体的に取り組んでいきます。

継承



日清紡ホールディングス株式会社



「環境・エネルギーカンパニー」グループとして、人類社会最大の課題である地球環境問題の解決に向けたソリューションを提供。モビリティ、インフラストラクチャー&セーフティー、ライフ&ヘルスケアの3分野で未来社会の創造に寄与していく。2022年1月、新日本無線株式会社とリコー電子デバイス株式会社が会社統合し、日清紡マイクロデバイス株式会社が誕生。



祖山 渉さん 2021年4月入学  
JRCモビリティ株式会社  
企画推進部 課長

1996年、日本無線株式会社に入社。以来、通信機器の開発業務に従事。2020年、日本無線より分社設立されたJRCモビリティ株式会社に出向。現在は、企画部門にて新規事業領域での事業創出に向けた戦略立案、製品企画を担っている。

電機業界の過去から現在がロジカルにひととかれ、真実を目の当たりにする「企業産業分析予測」の講義は驚きの連続。この学びを通じて業界動向を予測し自社の進むべき道を得たいと考えます。理科大MOTで培った知識・経験・人脈を総動員し、海図なき航海でも目的地を定め、信念と勇気を持って航路を指し示すことができる存在を目指します。



宮川 哲也さん 2022年4月入学  
日清紡マイクロデバイス株式会社 電子デバイス事業統括本部 開発本部 開発統括部 部長

1993年、新日本無線株式会社(現：日清紡マイクロデバイス株式会社)に入社。一貫してアナログ半導体ICの電源ICの回路設計など新製品開発に従事。2020年電源IC設計部門の部長に昇進。2022年より現職。

難しい局面にあるアナログ半導体ICの業界で生き残り、成長し続けるために技術経営を学び、自社をけん引できればと入学しました。2社が統合し、2022年に誕生した自社には、融合した知によるイノベーションが不可欠。理科大MOTで鍛えた知を活かして研究開発の戦略を策定するとともに、組織マネジメントをけん引して持続的競争力を保ち、成長に導いていきたいと思ひます。

徳重 芳朗さん 2022年4月入学  
日本無線株式会社  
交通インフラ技術部 担当課長

2008年、日本無線株式会社に入社。以来、トンネル内避難誘導設備の設計業務に従事。

「実践ケーススタディ」ではゲストスピーカーの経験談を多角的に議論、分析して最終結論を発表。日常業務でも必要なプロセスを経ることで、直接骨肉となることを強く実感しました。問題を自分事に落とし込み、周囲を巻き込み、仲間との活発な議論による深い思索が行える理科大MOTの環境を自社に持ち込み、問題解決に積極的に取り組む組織を構築していきたいと考えています。

三浦 庸平さん 2021年4月入学  
日本無線株式会社 共通技術部

2001年、日本無線株式会社に入社。約20年にわたり、手のひらサイズから約7mの長尺物まで、様々な種類のアンテナの研究開発や製品化設計に従事。2011年に東京工業大学大学院にて博士号取得。

「研究開発マネジメント」では、ゲストスピーカーからリアルな研究開発組織のマネジメント手法を学べます。それをもとにしたグループワークでは、異業種の学生から飛び出す意見が新鮮で、多くの気付きを得ています。理科大MOTで修得した知識を活かして、業界標準となるような製品やサービスに結び付けるための技術戦略を立案していきたいと考えます。

茂浦口 明雄さん 2018年4月入学(修了生)  
日清紡マイクロデバイス株式会社  
電子デバイス事業統括本部  
事業企画本部 戦略計画部 部長

1996年、新日本無線株式会社(現：日清紡マイクロデバイス株式会社)に入社。主に半導体デバイスおよびセンサーの開発に従事しつつ、外部企業との協業を推進。2022年より現職。

アナログ半導体市場で自社の存在感を高めるためには、技術と経営を結び付けることが重要と考え、入学しました。2社が統合して発足した当社は、技術や事業の領域が広がったことで新しいビジネスを実現できる可能性があります。研究開発の経験と本学で学び鍛えた知を活かし、社内外の技術を効果的に経営に結び付け、自社の成長に貢献してまいります。

橋本 武幸さん 2020年4月入学(修了生)  
日清紡マイクロデバイス株式会社  
品質保証本部 本部長

1997年、新日本無線株式会社(現：日清紡マイクロデバイス株式会社)に入社。一貫して半導体製品の品質保証業務に従事、課長職、部長職を経て、2021年より現職。

理科大MOTでは、レベルの高い学生がさらに見識を深め、視座を上げようとする姿勢、活発なディスカッションを目の当たりにし、企業にとって人の成長や組織のコミュニケーションがいかに重要か再認識しました。組織論/組織戦略について学んだことや学友と議論したことを自分事に置き換えて整理することで、自組織の中長期的な課題と解決の糸口も見えてきました。

樋口 穰司さん 2020年4月入学(修了生)  
日本無線株式会社  
マリンシステム事業部 情報ビジネス技術部

2005年、日本無線株式会社に入社以来、船舶用航海機器の開発に従事。2018年度より株式会社MTIに出向し自律・自動化船舶技術の研究開発を行う。日本無線に帰任後、自律・自動化船舶技術を軸に新規事業の創出を図る。

グラデュエーションペーパー執筆に際し、テーマの背景調査、事業部の現状分析、先行研究調査、新規事業提案に繋がられるアイデア出しは、まさに事業戦略を検討するプロセスそのもの。洗い出された社内の課題は少なくありませんが、ペーパーをもとに抜本的な改革を提案し、より良い製品・サービス、新たな価値を提供できる企業を目指してまいります。

山本 和秀さん 2020年4月入学(修了生)  
Saeron Automotive Corporation  
(日清紡ブレーキ株式会社)  
R&D CENTER Director

1998年、日清紡株式会社入社(現：日清紡ブレーキ株式会社)、開発部門に配属。グループリーダー、課長、部長を経て、2022年、理科大MOT修了後より韓国子会社に出向。自動車向けブレーキの“摩擦材”の開発総括を担う。

VUCA時代にいかに製造業として生き残るか、そのために技術経営が必要だと考えます。自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えています。グラデュエーションペーパーでは、そうした時代における自社の成長戦略を立案しました。その実践を自社と業界の成長に繋げ、明るい未来を切り開いていきたいと考えています。



大興電子通信株式会社

コンサルティングから、システム設計、構築、運用、検証まで、ICTに関するあらゆるニーズにワンストップで応えるシステムインテグレーター。「価値あるしくみ」の創造を掲げ、顧客が抱える顕在的および潜在的な課題への対応を目的とした「コトづくり」に注力する。また、DX(デジタルトランスフォーメーション)をベースとして、ビジネス環境の変革を目指し、顧客が実現したい革新的なテーマに対して「新しい価値の創造」で支援する。

(写真左より)

田中 泰弘さん 2021年4月入学  
大興電子通信株式会社 SEイノベーション本部 製造システム部 部長

2000年入社以来、一貫してシステムエンジニアとして生産管理、販売管理等の業務系システムの開発、導入を実施。2019年、2021年に中期経営計画策定チームに参画。2021年より現職。

「経営に携わることの難しさや面白さ」を学ぶために入学。「アドバンスドリーダーシップ」では、技術系経営者として組織を率いているゲストスピーカーより、多様なリーダーシップのあり方を学び、目指すリーダー像を形成する機会となりました。「知識」「理論」だけでは未来像を描くことが難しい現状で、理科大MOTで鍛えた「ビジョンを想像する力」を活かして、マネジメントを行なっていきます。

木島 洋介さん 2021年4月入学  
大興電子通信株式会社 総務人事部 副部長

法務担当として入社後、経理部門を経験したのち、2022年4月から現職と、一貫して管理部門での業務に従事。現職では、コーポレートガバナンス分野の総務機能と、コンプライアンス推進や紛争解決などの法務機能を中心に担務。

入社後、管理部門における様々な業務に携わってききましたが、理科大MOTでの学びを通じて技術の視点を新たに加え、自身の視座を高めたいと考えました。グラデュエーションペーパーの作成では、学んだことを消化した上でフル活用し、教員や仲間と何度も議論を重ねながら書き上げていくプロセスは、正直とても苦しい作業ですが、かけがえのない“財”になると確信しています。

井堀 俊彦さん 2022年4月入学  
大興電子通信株式会社 流通ビジネス本部 第一営業部 営業三課長

文系大学卒で、カーディーラーである前職を経て現企業に所属、営業職として約20年の経歴となる。長野県出身で現在は東京にて大学生の長女と同居の半単身赴任。趣味は子育て。

管理職である今の段階で、経営に必要な体系的な知見と科学的な理論を学び、異業種の仲間と実践することで自身の糧としたいと考えています。入学後初めてのグループワークを行った「技術経営入門」が印象的。異業種のメンバー6名でのワーキングを通じたビジネスモデルの創造に、あたかも疑似経営を行ったような感覚を味わえました。





派遣元企業

株式会社メルコホールディングス

### 株式会社 メルコホールディングス

IT関連、食品、金融の3事業を展開する純粋株式会社。主要子会社・株式会社バッファロー（BUFFALO）はパソコン周辺機器メーカーとして有名。牧寛之代表取締役社長のもと、市場縮小を克服する強靱な経営体制の構築を目指す。その一環として、論理的思考に基づく分析力、課題解決力を備えた人材を育成するため、理科大MOTに幹部社員を派遣。



**高野 浩二 さん** 2022年10月入学  
株式会社バッファロー・IT・ソリューションズ  
特販営業部 担当部長

2008年、営業会社へ就職。ソフトバンク携帯・固定電話・フレッツ光導入の新規開拓を行う。2017年から集合住宅向けのインターネットサービスの営業に従事。2020年には医療業界を中心として、物販事業の拡大に携わる。

事業環境の変化や問題点の気付きを得るスキル習得と、問題解決による経営戦略を実現し、CXOとなる自身の未来像が、自社からの期待に直結していると感じ入学しました。理科大MOTでは、戦略をベースに示唆性と実現性を身に付けることが目標。修了後はチャネルマネジメント・ブランド戦略を実施し、新規市場の創造を目指します。

**樋江井 昌浩 さん** 2022年4月入学  
株式会社バッファロー  
経営企画部 次長

1985年、コンピューター専門学校教諭7年で延べ200人の学生を社会に送り出す。1992年からはPC周辺機器メーカーで生産システム、海外工場3拠点立ち上げ。2003年、全社基幹システム再構築に従事。2020年よりネットワーク施工子会社役員兼務。

「モノ売り」市場の競争が激化する中、付加価値の「コト売り」提案が求められます。理科大MOTでは「理論」と「実践」の両面からこの課題を解決する力を鍛えられると考えました。学友との異業種間交流を通して得た経験から、議論では「自分ゴト」として全員参加が重要であることを再認識しました。これを自社で活かしたいと考えます。

**横山 奨 さん** 2021年10月入学  
株式会社バッファロー・IT・ソリューションズ  
特販営業部 担当部長

2007年よりキャリア向けソリューション営業として、提案・設計・運用までを手掛ける。2016年には、社員マネジメントを中心として、集合住宅向けのインターネットサービスの営業に従事。2020年からは医療業界を中心として、物販事業の創設に携わる。

若林先生の「企業産業分析」が印象的。情報の取得方法から、分析フレームワーク、将来予測までを行い、先生の「経営重心<sup>®</sup>」も直接講義いただけます。ほかの学生の発表を聞くだけで業界外の知識も増える濃密な時間です。理科大MOTで身に付けた「悩む力」や「考える力」。これを活かして新たなビジネスモデルを創っていきたく思います。

**右田 将章 さん** 2022年10月入学  
株式会社バッファロー  
コンシューマ営業部

2007年、株式会社BKS東日本営業部 コンシューマ営業2グループ配属。2012年より株式会社バッファロー コンシューマ営業部 営業2Gに配属となる。2014年よりコンシューマ営業部 コンシューマ営業2課2係係長。

人生100年時代に向けて自分に足りない理系の論理的な考え方を習得したく理科大MOTにチャレンジ。「アドバンストリーダーシップ」の講義には、第一線で活躍している方の講義が聞けて、大変刺激を受けました。特に東芝の島田社長の講義は、自分が関わっている業界でもあるため、今後の自身の業務に活かしていきたいと考えています。

**間宵 康明 さん** 2021年10月入学  
株式会社バッファロー  
法人マーケティング部 次長

2003年、電機メーカーを経て株式会社メルコ（現：株式会社バッファロー）に入社。2011年から株式会社バッファローメモリに出向、後に取締役。2018年には株式会社バッファローの法人マーケティング部次長として、メモリ製品組込事業を担当し現在に至る。

イノベーションを起こすためには、自身の経験や知識だけでは難しく、戦略・理論・人脈を身に付けることが必要。それが会社への貢献に繋がると考え、入学を決めました。ここで鍛えた知をベースに、各立場の「価値の変化」を起点とした戦略を立案し、イノベーションを起こして事業拡大を行うとともに、自社の可能性を切り開きたいと思っています。

**竹内 稔登 さん** 2022年10月入学  
株式会社バイオス  
営業部 営業二課

1996年、株式会社メルコ（現：株式会社バッファロー）に入社。国内営業として大阪、東京、北海道（北海道では営業所長）を渡り歩く。2022年4月より株式会社バイオスに出向。

「先端科学技術特別講義」は文系の身では付いていくのもやっとな中、最先端の科学技術研究の実情を知り、また深く思考する経験を得ることができました。入学間もないですが、常に物事を自分事として考えるよう心掛けています。いろいろな業種の社会人学生として事業拡大を行うとともに、自社の可能性を切り開きたいと思っています。

**栗本 哲 さん** 2021年4月入学  
株式会社CFD販売（株式会社メルコホールディングス）営業部

PCショップの店員からPCサプライのメーカー営業、卸売販売の営業を経て、2008年11月株式会社バッファローコクヨサプライに法人営業担当で入社。その後コンシューマ営業に異動し、店舗営業を約10年経験。2020年10月にCFD販売株式会社に出向。

新型コロナウイルスの影響で対面営業が困難な状況下、効果的な営業活動を再構築することが自分の使命です。理科大MOTで学び、当社の製品開発にも課題が見えてきました。その解決方法をグラデュエーションペーパーとして作成し、自社で実践していきたいと考えています。その後、学んだリーダーシップや組織マネジメントを活かしてCXOを目指します。

**眞方 淳 さん** 2017年4月入学（修了生）  
株式会社メルコホールディングス  
監査部 担当部長

1997年、株式会社メルコ（現：株式会社バッファロー）入社。法人営業や商品企画、新事業開発など幅広く従事。理科大MOT修了後、小売業の株式会社PXストア代表取締役社長に就任し、赤字経営の黒字転換を果たす。2020年より現職。

理科大MOTの財といえは、様々な業界業種や幅広い年齢層の学友との議論。自分の視野の狭さ、思考の浅さを思い知りました。ここで得た知は、第一に仕事の実践の場で形にし、第二に企業派遣の後輩への伝承で還元したいですね。自社はコングロマリット型の企業集団に変貌していくであろうから、異なる事業を活かす人材こそ後輩に担ってほしいと思います。

### 磨き上げた探究の心と姿勢は実務の成果に直結

## 日立国際電気

三上 奈央樹 さん 2018年4月入学  
株式会社日立国際電気 鉄道ビジネス本部 プロジェクトマネージャ

2002年、株式会社日立国際電気に入社し、防衛事業部門や経営企画部門の後、鉄道事業者向け映像・センシングシステム部門を取りまとめている。在学中は学生代表(総代)のほか、2020年「第3回ベシック・レポート・アワード」でアカデミック賞を受賞。

#### 汗と涙のグラデュエーションペーパー

テーマ：再成長型MBOにおけるメタモルフォーゼ戦略について  
～蝶が羽ばたくための蛹の生き方～

入学時にすでに決めていた「企業成長」に関する研究を行いました。一般的に、上場企業は比較的情報を集めやすいものの、非上場企業では情報開示が少ない場合も多く苦労したことが思い出されます。ゼミで内容を議論することも多く、ご担当いただいた若林先生からの指導だけでなく、ゼミ生からも温かくも鋭い質問を頂きながら研究を進めました。ゼミ生と書き上げたペーパーは、まさに私一人だけではない集大成となり、貴重な経験となりました。

#### 濃密な理科大MOT体験の向こう側

修了後は理科大MOTで学んだことをにじみ出すようにして日ごろの仕事に生かすよう努めました。周りを巻き込んでいくように取り組むことで、大きな成果が生まれるからです。結果として、部門の業績を大きく改善することに繋がりました。理科大MOTでの探究する心と姿勢は、学びだけでなく実践に直結することを実感した瞬間でもありました。



### 理科大MOTを起点に加速するイノベーションの試み

小野塚 惠美 さん 2020年4月入学  
エミネントグループ株式会社 代表取締役社長CEO

#### 汗と涙のグラデュエーションペーパー

テーマ：今、期待されるサステナブル経営への転換  
～自動車業界の事例に見られる製造業の経営改革への示唆～

理科大MOTへの入学動機でもありますが、日系企業のROEが上がりず比較劣勢に悔しい思いを感じていたため、それをテーマに落とし込みました。特に課題が強い自動車産業においてサステナブル経営への転換を図り、課題解決を実現する試みです。改革に成功する企業はDX思考によって陥りやすい罠を乗り越えているのではないか、という仮説を立てて検証を進めました。ワーキングマザーとして、タイムマネジメントにはこだわりを持ち、自分が一番プロダクティブな状態にいられるよう時間を使うことが、ペーパー作成においても重要だったと感じます。

#### 濃密な理科大MOT体験の向こう側

ペーパー作成時、ケーススタディの対象となった企業で社外取締役を務めることになりました。また、在学時に行っていた有志の勉強会が母体となり、「科学と金融による未来創造イニシアティブ」という社団法人を立ち上げました。サステナブルファイナンスによる経済価値と社会価値の創出にシームレスに取り組み、社会のアップデートに貢献するための「場づくり」、「人づくり」、「未来への投資」をキーワードに活動しています。

# 進化

## 修了生の活躍

### 習得した問い・仮説・検証のスキームを事業発展に繋げる



阿部 光弘 さん 2019年4月入学  
株式会社PXストア 代表取締役社長【出向元】株式会社バッファロー

2011年に株式会社バッファローへ入社。コンシューマ営業を担当し、販売チャネル向け戦略の企画立案に従事。理科大MOT在学中にPXストアへ出向し、修了後より代表取締役へ就任。現在はアフターコロナの小売りの在り方を模索し、新たなビジネスモデルを展開。

#### 汗と涙のグラデュエーションペーパー

テーマ：オンラインから世界観の発信  
—リアルとECから得るそれぞれの購買体験—

まず自身が本当に執筆できるかが不安であり、なかなか筆が進まない日々が続きました。それでも「毎日1文字でも書く」ことを念頭に進めると、習慣が身に付いてきたのか、次第に執筆がスムーズに。教員やゼミ生と本音の議論をすることで解を生み出すことができました。互いを尊重し、徹底的に議論し合うことで、多くの問題を解決できると実感しています。

#### 濃密な理科大MOT体験の向こう側

講義やペーパーの経験から、問い・仮説・検証のスキームが身に付いたと感じます。これにより、事業を行う上で正しい判断ができるようになりました。PXストアの従業員と一致団結し売上拡大を行い、顧客へ喜びを提供できる会社へ成長させることが目標。実現すれば、雇用の拡大や社会貢献に繋がります。また自身がつまづいたときは、理科大MOTの公開授業などに参加し頭のリフレッシュをしたいと思っています。



### 発想の転換で壁を突破 業界俯瞰の経営視点を培う

立山 忠生 さん 2020年4月入学  
医療機器メーカー 経営企画職

光学レンズ事業のメカ設計エンジニアとして10年の経験の後、営業・マーケ・製品企画で約10年のキャリア。2020年から理科大MOTで学び、2021年度に総代として修了。修了後転職し、現在、医療機器メーカーの企画職として従事。

#### 汗と涙のグラデュエーションペーパー

テーマ：業界動向変化にレジリエントな企業生存モデル  
—中台から学び、光学事業をケースに—

業界動向による影響をどのように経営に組み込んでいくべきか、広く一般解として定義することを目指しました。比較的早くに、各企業が市場の波に乗っていることをレジリエンス度として示し、ROICとの相関性を出すことはできたものの、結論に至るロジックを構築できない状態が続きました。締切1カ月前には半ば諦めにも近い心境にもなりましたが、仮説とは違う結果をまずは受け入れてみることを試すと、それがブレイクスルーになって一気に完成に向かうことができました。

#### 濃密な理科大MOT体験の向こう側

視点、視野、視座の持ち方に変化を実感しています。会社全体の経営に参画していきたい気持ちより強くし、その結果として転職の道を選んだのですが、自身の過去キャリアでは、応募が難しかったポジションにも関わらず、理科大MOTでの修了も評価していただき、オファーを頂けたと考えています。

<https://most.tus.ac.jp/>



MOT Business Magazine

Vol.5 | 発行元：東京理科大学 大学院 経営学研究科 技術経営専攻 (MOT) | 発行：2022年12月12日

【お問い合わせ】

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3 東京理科大学 経営学研究科 技術経営専攻  
E-mail mot-tus@rs.tus.ac.jp